

# 公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



## 特集 珍スポーツ『スリッパ卓球』に夢中

- 4.5 **2** トピックス 中越地区公民館職員研修会
- 3** 視点 指定管理者制度を導入してもう五年、成果と課題
- 3** ひろば 人々を結ぶ
- 6** 実践記録シリーズ 芸術・文化の祭典『生涯学習フェスティバル』
- 7** サークル交流 ふれあい学級の紹介(佐渡市) / 劇団「ラピカ」の誕生(刈羽村)
- 7** 素顔拝見 渡辺 鉄也さん(長岡市) / 高橋 和雅さん(糸魚川市)



寒九の水汲み  
五泉市

表紙解説  
新酒を仕込むための清水を求め、地酒や登山の愛好家が菅名岳中腹の『どっばら清水』へ向かい山道を歩く。

# 中越地区公民館職員研修会

## 中越地区公民館連絡協議会 事務局幹事 渡邊 善則

### ◆主 題◆

社会構造の変化や住民意識の多様化に対応する公民館事業をどう進めればよいか  
住民の声を公民館事業に生かすグループワークの手法を学ぶ

### ◆主 管◆

中越地区公民館連絡協議会 主事部会  
十日町市中央公民館・津南町公民館

### ◆期 日◆

平成二十二年九月十七日 (金)

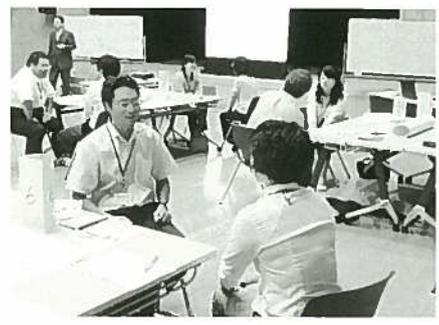
### ◆会 場◆

十日町市千手中央コミュニティセンター

### ◆講 師◆

宇都宮大学生涯学習教育研究センター准教授 佐々木 英和 様

中公連では、毎年「公民館研究集会」「公民館職員研修会」「公民館長・主事・公運審等研修会」の三事業を開催している。中でも「公民館職



ラベルワーク研修

員研修会」は、一日日程で管内の公民館職員を対象に公民館の今日的課題をテーマにグループワークを中心にした研修会である。二年間ほぼ同様の内容を続け、多くの公民館職員が同じ研修を受講できるようにと工夫している。  
今年度は、昨年に引き続き佐々木先生を講師に迎え、参加者四十二名で開催した。  
午前中は、主に生涯学習と公民館活動のあり方について二人組でコーチングの手法を用いてコミュニケーションを図りながらの講義であった。

### 公民館の教育機能の重要性

について、伝達の4局面「伝えたのに伝わらなかった」「伝えなかつたのに伝わった」を事例にして、公民館は、教えなくても学習者が自ら学ぶことによつて教育が成立する場である。「教育」の目的は、学習者を主体に捉えれば教えることではなく育むことである。公民館はまさにこれになつていると力説された。

午後は、地域や経験・性別等を均等にした十グループを構成し、ラベルワーク研修を行った。始めに各グループの士気を高めるためにニックネームを競い合い、その後各グループで魅力的な公民館事業の企画・立案作業に入った。この頃になるとメンバー全員が積極的に自分のアイデアを出し合い、意見交換する光景が多くなった。  
最後にプレゼンが行われ、評価し合い大いに盛り上がった。

参加者のアンケートから



各グループのプレゼンテーション

は、楽しく、短時間で集中してできて有意義であったという声が多かった。中には、内容が多くてなかなか消化できなかったという声も聞かれたので来年に向けまた改善を図っていききたいと考えている。  
最後に、講師の佐々木先生がおっしゃった「喜びと笑顔あふれる公民館」を目指し、一人一人が、一層努力していきたい。

## BOOKS INFORMATION

研修資料「子どもと共に育つ地域体験学習プログラム」 監修 中島 純 (新潟経営大教授)  
\*新潟県田上町ゆうゆう教室 B5判54ページ

---

「文芸むらかみ」創刊号 五市町村合併後に各地区の文芸誌をまとめた創刊号  
\*特別寄稿、随筆、短歌、俳句、川柳、詩、コント A4判154ページ

問い合わせは 新潟県公民館連合会事務局まで  
〒951-8053 新潟市中央区川端町2-9 県林業会館内 電話・FAX 025-224-6073 E-mail ni-koren@juno.ocn.ne.jp

# 視点

## 指定管理者制度を導入して もう五年、成果と課題

刈羽村公民館長・ラピカ事務局長 鬼山 正生



刈羽村生涯学習振興公社（ラピカ）は経費削減、仕事の効率化、サービス向上を目標に掲げ平成十八年四月に導入してもう五年が経過しようとしています。理事長、副理事長、事務局長が行政の人から民間の人に代わっただけで職員もそのまま引き継ぎましたのでスムーズに指定管理者制度に移行することが出来ました。この施設はスポーツ施設、文化施設、図書館の複合施設で、もし公民館、図書館だけならまだ導入していなかったかも知れません。導入にあ

たっては、休館日を毎週月曜日だったものを、毎月第四日曜日。開館時間も三十分早めたり、年末も三十一日と元日のみ休みとし二日から初仕事とサービス向上に努めた成果もあり、お蔭様で利用者も増え年間で約二十五万人となりました。しかし、スポーツ事業の参加者は多いのですが残念ながら公民館事業の利用者は増えていません。これからは定年を迎えた団塊の世代の人達や男性の利用者が参加しやすい環境を作り利用者を増やしたいと思っています。

# H O T N E W S 掲 示 板

## 平成22年度の「社会教育主事講習」が開催されます。

- 講習名 平成22年度社会教育主事講習【B】
  - 期 間 平成23年1月19日～2月25日
  - 会 場 新潟県立生涯学習推進センター
  - 実施科目及び期間・時間帯
    - 「生涯学習概論」2単位1/19～1/25 9:30～17:15 (エルネット送信)
    - 「社会教育計画」2単位1/26～2/1 9:30～17:15 (エルネット送信)
    - 「社会教育特講」3単位2/7～2/18 9:30～17:15 (エルネット送信)
    - 「社会教育演習」2単位2/21～2/25 9:30～17:15
- ※2/2～2/4は宿泊研修、2/15は現地研修。いずれも「社会教育演習」の単位取得に必要です。
- 問い合わせ  
新潟県立生涯学習推進センター  
〒950-0948 新潟市中央区女池南3-1-2  
電話 025-284-6110

## 来年の全国公民館大会は「佐賀市」です。

- 大会会場 佐賀県佐賀市文化会館大ホール
- 大会期日 平成23年10月20日～21日
- 大会テーマ 「地域コミュニティーの再生と社会教育の役割」社会・地域を切り拓く公民館をめざして
- 主な内容
  - 一日目 記念講演
  - 二日目 分科会実践発表・協議

# ひろば

人々を結ぶ

十日町市公民館運営審議会委員

遠藤 昭一

公民館畑に約十八年在籍しました。特に分館主事三年、続いて分館長を六年務めさせて頂き、公民館制度の意義を実感しました。公の思いと民間との融合を心憎いほど完璧に結んできたその功績は、素晴らしいものと感じました。

今その方向が薄れ掛けてはいないでしょうか。若者の利用が減少し、高齢者中心の事業になっているかと思われるのは私だけでしょうか。

初期の頃は最先端のものは公民館にまず導入され、それを見たり体験するのに公民館の集客効果があったのではないのでしょうか。今は地デジもパソコンも少し時代に遅れがちになっていくような気がしますが…。



私の思い過ぎでしょうか。分館長任期中にワークショップを他に先駆けて実施し、パソコン講習会も分館では市内一番に開講しました。やはり多くの人を集めることになったと思っています。

時代は変化してもそれに立ち向かう努力が必要だとつくづく思っています。世の中の流れを敏感に取り入れ、最先端の指導性を発揮したいものと思っております。

# 『スリッパ卓球』に夢中

室の活動以外でも、スリッパ卓球教室に参加されている参加者が、夏休み期間中に小学生を対象に公民館主催「室内スポーツ体験」の一環で、50名の子ども達を相手に指導をしてもらったり、小学校から「子ども達に、スリッパ卓球を紹介してもらいたい」と要請があれば、参加者から学校へ出向いてもらい児童の前でデモンストレーションを見せる等、会員も地域のために快く協力しています。

## 4. 今後の目標と課題

最後にこのスリッパ卓球教室の今後の目標は、来年の3月に地元で行われる日本ボケ祭り（小須戸は日本一のボケの産地）の開催時期に併せて「第2回新潟県スリッパ卓球選手権大会」を開催することです。（特製スリッパラケットはボケの花の刺繍入り）

昨年の第1回大会を実施して強く思ったことは、「参加される方には、勝ち負け抜きで楽しく参加してもらいたい」ことでした。

大会自体は卓球クラブの名進行で円滑に予定よりも時間が早く終了し良かったのですが、競技中などにも笑いの要素（開会式と閉会式にはあった）が必要だと思ったのでした。

・特に個人戦の決勝では、スリッパラケットこそ使用しているのですが、ほとんど普通の卓球大会の競技みたいだったのです。

そこで、第2回目をどう盛り上げるかが今後の課題です。次のようなことを私なりに考えたので紹介したいと思います。

- ①旅館やホテルの宿泊者が浴衣を着てやるレクリエーションの卓球もあるので、大会参加者で希望者がいたら浴衣でやることにしたらおもしろいのではないかと思います。もしくは、個人戦の準決勝から男性は浴衣を着用するローカル・ルールを定めたら試合の勝ち負けにこだわらずに試合ができ、更に大会全体が愉快的な感じに印象付けられるのではないかと思います。また、当然、浴衣にスポーツシューズは似合わないので本物のスリッパを履いてもらいたいと思っています。某温泉

関係者の知人の方に趣旨を説明し、お願いしたところ理解をしてくださり中古の浴衣ですが、無償でいただき、実際に教室参加者の男性メンバー全員に着用してもらいスリッパに履き替えてスリッパ卓球をやってみたのです。

- ②昨年は「大会を一番盛り上げた方にも特別賞」を差し上げたのですが、なかなか試合で大会を盛り上げるというのは、至難の技のようです。そこで、次回の大会では実力の順位他に仮装の順位もつけたらどうかと思っています。最近では、マラソン大会でも、仮装をしながらレースに参加される方も大勢います。仮装の参加があることで会場の雰囲気も和やかになり、ユニークになると思うのです。

「お金を掛けなくても、アイデアと工夫しだいで広範囲の方々から大勢集まってもらい、少しでも多く楽しんで参加してもらえるか」第1回のスリッパ卓球大会を終えて、考えるようになりました。

世界中どこを探してもスリッパで卓球をやる人はいるわけがありません。そんな中、小須戸地区では真剣に汗を流して「笑えるスポーツ」としてスリッパを振り回し球を追いかけ卓球を楽しんでいます。私自身も様々な参加者で行うスリッパ卓球の球の打ち合いが、心をつなぐ会話のように思えてきました。

この「スリッパ卓球」が繋げる人の輪を今後も、どんどん広げていきたいのです。



第1回大会の熱戦の様相

# 特集



新潟市小須戸地区公民館  
副主査 野崎 義和

## 1. 「笑い」と「健康」を生む珍スポーツ

人生の中で「笑い」と「健康づくり」は欠かす

ことのできないエッセンスではないだろうか。そ

れを実現できる珍スポーツが、今回ご紹介する『ス

リッパ卓球』です。小須戸地区公民館で行ってい

るスリッパ卓球はスリッパの生産量が日本一で、

過去に卓球の日本チャンピオンも生まれている山

形県河北町が考案した珍スポーツです。その河北

町から取り寄せた、普通のスリッパよりやや大き

めの特製ラケット(長さ最大29センチ、横幅最大15センチ)

しかも持ちやすいようにラケット付き)を使い、

卓球より大きめのピンポン球(直径44ミリ)を打ち

合っているのです。球も大きいサイズのため①球

が見やすい②スピードが出ない③回転がかりに

くい点で、普通の卓球よりも球の打ち合いが続き

やすいことも、楽しさを増させています。

またその特製ラケットは球が弾まないため、体

全体を使って打ち返さないと上手く相手に返せな

いので運動量は意外と多く、毎回教室が終了する

頃は季節を問わずTシャツが汗で、びしょより状

態になるほどです。

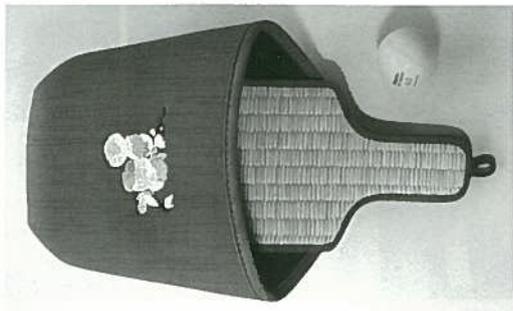
現在、このスリッパ卓球を毎月第1、第3火曜

日の夜7時半から9時まで小須戸体育館(俗称：

かまぼこ体育館)で「スリッパ卓球教室」と称し

て毎回、楽しく開催しております。(今年度は、

特製ラケットとピンポン球



## 2. スリッパ卓球を始めたきっかけ

来年の3月末まで実施)  
また、昨年から「新潟県ホケ1スリッパ卓球大  
会」と称して、スリッパ卓球の新潟県大会も開催  
しました。その際には地元卓球クラブやコミュ  
ニティ協議会などの大勢の地域の方々の力添えを  
お借りしながら百名余りの参加者を集め無事に終  
了することができ、改めて「地域力」を感じたの  
でした。

スリッパ卓球教室を始めたきっかけとなったの

が、3年前に「笑い」をテーマに開催された市民

講座にたまたま参加し、「笑える卓球」という授

業を何の気なしに選択して参加したのが始まりで

した。そこで当日の講師、小林さんから笑いと関

心を交えながら「スリッパ卓球」の素晴らしさを

講義と実技を通して身をもって教わりました。「意

外と、おもしろい遊びだなあ」初めて実際にスリッ

パ卓球をやってみて感想でした。「誰でも5分も

練習をすれば、それなりに打ち合いを楽しめるよ

うになる」ということを事前に講師から聞いてい

て、実際にはほんの少し練習をしただけでコッさえ

つかめば、おもしろいように球の打ち合いが出来

ることがわかりました。このスポーツならば小学

生から高齢者まで楽しむことができ、卓球の経験

者も、そうでなくても五分五分で球の打ち合いを

楽しめる。「このスポーツで、(年齢を問わず)地

域住民から楽しんでもらいたい。また、そうなの

たら面白いんじゃないか」という気持ちが出てきて

きました。また、この授業に参加したことにより

委員会の職員(当時)小林さんと知り合いになり

ました。その後のスリッパ卓球教室や新潟県大会の

開催などに際して物心両面からアドバイスや支援

を受けることが出来たのです。

## 3. 教室の雰囲気は、こんなです

スリッパ卓球教室の現状はというと地元近傍  
(小須戸・新津・白根・加茂など)から小学生か  
ら20代の女性や中・高齢者まで3、4世代の25  
名程度が毎回笑いながら夢中になって球の打ち合  
いを楽しんでいます。また日頃のスリッパ卓球教

# 珍スポーツ

# 実践記録

## 153

### シリーズ

## 芸術・文化の祭典『生涯学習フェスティバル』

出雲崎町教育委員会 社会教育係 帆刈 純一

### 1 はじめに

出雲崎町公民館では、毎年11月2日・3日の2日間に渡って、『生涯学習フェスティバル』を開催しています。

中越沖地震の影響で、平成19・20年と中止しましたが、町民の皆さんからの熱い要望により、昨年度から復活しました。

### 2 事業概要

今年度開催した『生涯学習フェスティバル』の主なプログラムは次のとおりです。

#### ①作品展示

11月2日・3日の2日間、町中央公民館の講堂やロビーに各文化サークル（盆栽、陶芸、書道）の作品をはじめ、各種団体・個人の工芸品や絵画、写真など、多くの作品が会場を所狭しと埋め尽くしました。

今年は、地元出雲崎小・中学校からもご協力をいただき、児童・生徒（小学4～6年生、中学1～3年生）の作品を展示しました。

来場された方からも、「出展作品のレベルの高さに驚かされました。」といった感想が聞かれました。

#### ②ステージ発表

11月3日に開催したステージ発表には、総勢16組の団体・個人が参加され、日ごろの練習の成果を存分に発揮した全19演目が披露されました。

各文化サークル（スポーツダンス、太極拳）や保育園、小学校など、様々な団体・個人の方々が、魅力的なステージ発表を展開しました。

今年は、音響・照明の設備を既設のものではなく、専門業者に依頼して、本格的な設備を設置しました。

これは、出演者の方々からの要望に応えたものですが、皆さんからも大変好評をいただきました。ま

た、出演者皆さんの真剣な表情が際立ち、会場全体がとても良い雰囲気の中で開催することができました。

#### ③町民茶席

11月3日に、町婦人会と小学校児童によるお茶席を開催しました。参加された方が、心穏やかにお茶をいただいている姿が印象的でした。

#### ④図書は無償配布

町立図書館の蔵書の中で、汚れや傷みが目立ち、開架していないものをご自由にお持ちいただけるコーナーを設置しました。

11月3日の1日だけでしたが、意外な掘り出し物を探しに多くの方が訪れ、好評でした。

この他にも、町保健福祉課主催事業『健康づくりフェスティバル』の同時開催（11月3日）や、青少年育成出雲崎町民会議で募集していた『あいさつ運動啓発標語』の発表（3日のステージ発表前）、第4回町民ウォーキング（3日午後）など、【文化・芸術の祭典】の枠組みを超えた、盛り沢山の内容で開催することができました。

### 3 今後の課題等

終わってみて、「もう少しこうすれば良かった。」といった反省はいくつかありますが、一番大切なことは、『生涯学習フェスティバル』に関わる全ての方が豊かな気持ちになるとともに、【ひとづくり・仲間づくり・地域づくり】のきっかけ・機会を提供することだと思います。

そのためにも、様々な方の意見を聞きながら、【公民館最大のイベント】としてより一層充実した内容になるよう、町民の皆さんと一緒に創りあげていきたいと思っています。



力作揃いの作品展示



華やかなステージ発表



ゆったりと町民茶席



## event information

県公民館連合会のホームページが開設されました。

11月18日(木)に「新潟県公民館連合会」のホームページが開設されました。内容は、公民館連合会の組織、役員一覧と県内各地の公民館情報がメインになっています。公民館情報がまだまだ未整備のため、事務局がこれから情報を入れていきます。

どうぞご利用ください。

ホームページの URL

<http://www.新潟県公民館連合会.com>

## Net work

ネットワーク

### 「公民館全国セミナー」が開催されます。

平成22年度の生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）が下記のとおり開催されます。

- 1 主催 全国公民館連合会
- 2 開催日時 平成23年1月26日(水)～28日(金)
- 3 開催会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
東京都渋谷区代々木神園町3-1
- 4 参加基準 都道府県公連から推薦を受けた者
- 5 参加費 無料  
国立オリンピック記念青少年総合センターに宿泊する場合は全公連が宿泊費を負担します。  
県公連から一名、一万円の旅費等補助があります。
- 6 申し込み 12/20までに県公連事務局まで
- 7 その他 各市町村中央公民館に開催要項、申込用紙があります。  
全公連のホームページにも詳細が紹介されています。
- 8 問い合わせ  
県公連 新潟市中央区川端町2-9  
県林業会館  
電話 025-224-6073  
E-mail ni-koren@juno.ocn.ne.jp  
全公連 東京都港区虎ノ門1-1608  
飯島ビル  
電話 03-3501-3481  
E-mail zenkoren@kominkan.or.jp

## あ と が き

**事** 務局長のつぶやき  
11/18(木)に、関プロ理事会に出席のため上京しました。その往復の新幹線車中でのこと。上りは早朝にもかかわらず、自由席は満席に近い状態でした。仕事で上京するビジネススマンらしき人が多い。その中の一人が携帯電話で声高になにやら話し始めました。50歳くらいで

紳士然とした人でしたが、会話は10分くらい続きました。帰りは東京発が多分でしたので、かなり混んでいました。またまた、携帯電話。なにやら駅への迎えを連絡している様子。連絡がうまくいかず、イライラした声の熟年の女性でした。どちらもデッキに出て使用するのがマナー。  
とかく若者のマナー違反を指摘しますが、大人がこれでは、と考えさせられる車中の出来事でした。  
(田原)

## 未来に残そう美しい山村

山村地域は、食料の生産、水源のかん養、災害の防止、空気の浄化、心のやすらぎの提供など様々な役割を果たし、国民の生命と生活・財産を守っています。

全国山村振興連盟新潟県支部  
支部長(村上市長) 大滝平正

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内  
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

- ◆新潟県内の山村市町村(振興山村:16市町村)  
新潟市、上越市、三条市、柏崎市、加茂市、十日町市、村上市、糸魚川市、妙高市、五泉市、魚沼市、南魚沼市、胎内市、阿賀町、湯沢町、関川村